

とわわとねねねの悪戯記録

CHRONOM

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

いたずら好きだけどどこかおつちよこちよいな先輩、常闇トワ

何事にもポジティブシンキングで何かと不幸な桃鈴ねね

彼女たちは今日も同じ事務所のメンバー達にいたずらを仕掛けようとしています…

果たしてうまくいくのでしょうか？

目次

今日のいたずら	# 1	1
今日のいたずら	# 2	4
今日のいたずら	# 3	9
ねねねの逆襲		13
今日のいたずら	# 4	17
今日のいたずら	# 5	20
今日のいたずら	# 6	24
今日のいたずら…？		28
今日のいたずら 2ndフェス編		31
今年最後の…		35
最終回 これからの1年を…		39

ねね「…それいいあるね」

ねねはニヤリと口角を上げる

二人は握手を交わし次のターゲットを待つ

おかゆ「まーたトワがなんかやってるねえ」

フブキ「うむうむ、若いねえ」

ミオ「ねえ、止めたほうがいいんじゃない…?」

それを遠巻きに見つめる人物達

猫又おかゆ、白上フブキ、大神ミオの3人だ

フブキ「面白そうだから見ていよう（トワちとねねちなら大事にならないよ）」

おかゆ「ほつといたほうが面白い展開になりそうだし（トワとねねちちゃんなら大丈夫でしょ）」

ミオ「本音と建前が逆になってるよ、つてか本音も建前もひどいな!？」

ドアの事務所のドアの死角に隠れるトワとねね

次にドアを開けた人物をターゲットにすると決めたようだ

コツ、コツ、コツ

と足音が近づいてくる

トワ（くるっ!）

ねね（いくある!）

ドアが開くのを見て2人が動く

まつり「こんにちくわっしょい!」

入ってきたのは夏色まつり チア部に所属する自称清楚の女の子

だ

そこへ2人はためらいなく飛び出した

ねね「もー！ー！ほんととわわ先輩ひどいある！」

トワ「だーから、何回も謝ったじゃんかあ〜」

暴れまわったねねにジューズを渡して

ねね「なんでいつも悪戯一回目がねねがターゲットになるあるか!?」

トワ「別狙ってるわけじゃないよ、ただいつも都合よく近くにいらるだけで」

ねね「ようはちかくにいたからってことじゃないですかあ!!!」

結果いじられてるといふことに対してねねは地団太を踏んでいる

トワ「まあまあ、じゃあさこれを今度はねねねが他の人に仕掛けてみようよ」

ねね「えー…また失敗したら痛い目にあう気がするある…」

トワ「大丈夫、トワが付いてっから！」

ねね（ある意味それが不安あるよとわわ先輩…）

???????? 「ちわーっす、収録疲れた〜」

「お余？トワちゃんにねねちゃん？こんなきり〜」

???????? 「なにになに？今日は2人だけ？」

別室で収録していた

大空スバル、百鬼あやめ、大神ミオの3人が事務所へと入ってきた
ねね「あ、先輩方お疲れ様ある！」

トワ「スバルちゃん達収録だったんだね、お疲れ様〜」

スバル「まあ、スバルだつてアイドルだからね」

トワ「疲れたでしょ？」

甘いもの欲しくない？」

トワはその言葉を放つと同時にねねにアイコンタクトする

ねねもそれに反応し行動に移る

ねね「お疲れの先輩方にプチシユーのプレゼントある!」

あやめ「お〜いいねえ」

スバル「せっかくだしもらおつかなあ〜」

あやめとスバルは何のためらいもなく手を伸ばす

しかしミオは

ミオ「ちよつと待って

な〜んかおかしくない?」

スバル「ん?ミオしやどうかしたつすか?」

ミオ「随分準備がいいなあと思つてさ、プチシユーわざわざさらに広げてるつて辺りがさ」

ねねとトワは内心汗だくだがとりあえずそのまま進行する

ねね「なななななんいも悪いものなんて入ってないあるよ…」

トワ「きききききききのせいだよ…」

スバル・あやめ・ミオ（これなんか仕掛けたな?）

スバル「なあトワ、ねねちゃんなんも悪いものはいつてないつてんならさ

2人がまず食べな?」

ねね・トワ「……え?」

ねねとトワは顔を見合わせる

このままでは自分たちだけがからし入りのプチシユーを食べるところになる

ねね「し、しかたないあるね〜!」

ねねが焦りながらも1個手に取り

口に放り込む

ねね「あつま〜!〜!〜!〜!〜!おいしいある〜!」

4人「あれええええええええええ!?!?!」

絶対何か悪戯がされていると思つていた3人、そして仕掛けたトワ自身はすごく驚いていた

これも一種の因果応報

悪魔の悪戯リベンジはおそらく続く

今日のいたずら #3

ホロライブ所属アイドル達の癒しの場
事務所

今日も悪戯好きな悪魔が何時か企んでいるようです

トワ「さーて、今日はどうしよっかなあ」

ねね「とわわ先輩…またやるあるか…？毎回失敗してるあるよ…」

トワ「別にトワのせいじゃないから！何かとタイミング悪かったりするの全部世界が悪い！」

ねね「世界って…突然ヘイトが凄いとこに向かったある…」

今日も事務所に遊びに来ていたねねを巻き込んで悪戯の作戦会議

中

しかしこのところの失敗続きでねねは乗り気ではなかった

ねね「まずはターゲットを絞ってどんなことを仕掛けるか考えればいいんじゃないあるか？」

トワ「んーでも仕掛けるとしたら誰だろう？」
すると

ガチャッ

ぼたん「あ、トワ先輩、ねねちもいるじゃん、どったの〜？」

ポルカ「トワ様もしかしてまーた悪戯ですか？ねねがいるってことはそうですよね？」

ねねの同期であるホロライブ5期生

ホワイトライオンの獅白ぼたん、サーカスおまる座座長の尾丸ポルカが事務所へとやってきた。

トワ「げっ」

ぼたん「【げっ】とはひどいじゃないですか先輩」

ポルカ「大丈夫ですって、むしろあたしたちトワ様の悪戯協力したいくらいで」

ねね「ししろんとおまるんが？」

トワとねねはニヤリと笑う

多方面に頭の回るこの2人を加えれば今度こそ失敗しないはず

トワ・ねね「「ぜび」」

ぼたんとポルカもニヤリと笑うと

ぼたん・ポルカ「「そーこなくっちゃ」」

4人はがっしりと握手を交わす

ぼたん「で、ターゲットなんですけど…」

ガチャリ

事務所のドアが再び開く

ラミイ「みんなお待ちせよ、あれ？トワ先輩もいらしたんですか？」

雪国出身の令嬢雪花ラミイ、彼女もホロライブ5期生である

トワ「ラミイちゃんお疲れよ、ちよつと用事があったよ」

ラミイ「ラミイはししろんからいいお酒が手に入ったから試飲しな

いかって言われて」

ぼたん「あ、ラミちゃんおつおつ待ってたよ」

そう言ってお盆に紙コップを入れたぼたんがやってくる

ポルカ「へえよこれが獅白がいったやつ？」

ねね「ん〜！みんなばっかりずるいある！ねねだって飲みたいのに！」

※桃鈴ねねちゃんは19歳です

トワ「はいはい、未成年はジュースね」

ねね「とわわ先輩だって17歳ある！」

トワ「悪魔は17でも飲んでいいんだもん」

ねね「はあー——ん！そんなく！意地悪ある〜！」

ポルカ「てなわけでき、酒飲める組全員は用意したお酒、ねねはこのジュースね」

全員が紙コップを手にする
ラミイはどんな味のお酒なのか気になって目をキラキラとさせて
いる

が、はいたずら

当然入っているお酒もただのお酒ではない

ポルカ（ラミイのカップに入っているのは度数96度のスピリタス
！）

トワ（常人が飲んだら絶対リアクションするはず！）

ねね（勝った！第3部！完！）

他4人のはただの炭酸水である

果たしてラミイのリアクションは…

5人「乾杯！」

グイッと5人一斉に飲み干す

すると

バタン！バタン！バタン！

トワ、ポルカ、ぼたんの3人が倒れる

ラミイ「ん？これただの炭酸水…？つて？みんなどうしたの!?先輩
!?しろんん!!おまるん!!」

ねね「あっ…あれ？3人ともどうしたある!?あれ!?あれえ!」

ポルカ（しまった…ほかのアルコール組はめるためにスピリタス入
れたつもりが…）

しろん（スピリタス入れられてたみたいだったから順番いじった
はずが…）

トワ（しろんが置き場所いじってたから元に戻したつもりが…）

3人（（どうしてこうなった…!））

ねね（もしかして…みんな陰で悪戯しあってたある…?）

ラミイ「ちよこ先生！ちよこ先生いませんか!!!?」

ねね（やーっぱり失敗したある…いや、ある意味成功かも…？）
悪戯悪魔も少しは反省するのでしょうか？
今後悪戯は続く（はず）

ねねねの逆襲

ここはホロライブメンバーの心のオアシス
事務所

ですがそんな事務所ですらいつも悪戯を働く悪魔は
トワ「ロボ子てんぱい！そっち敵이었습니다！」

ロボ子「あいよー、カバーよろしく！」

ちよこ「すいません、回復しますね」

バーチャルロボットのロボ子さん

魔界学校のバーチャル保険医の癒月ちよこ

2人の先輩と一緒にゲームの最中だ

遠くからその様子を桃鈴ねねと尾丸ポルカが見守っていた

ポルカ「いやー、ほんと先輩方のAOEXはすごいなあ、連携もだ
けど1人1人がうまいから」

ねね「んむむむむう…」

ポルカ「んあ？どつたのねね？」

ポルカの問いに考えこんだ表情でねねが答える

ねね「いや、今こそ日ごろとわわ先輩に巻き込まれてる反撃のチャ
ンスなのかなって」

ポルカ「真面目な顔で何言ってるんだお前？変なところでトワ様に似て
来たな」

ねね「最近巻き込まれてばかりだからちよつとびつくりさせるく
らい許されてしかるべきだと思ってるんだ」

ポルカ「まあ、いいけど…どんなことすんの？」

ねね「うーん、それが思いつかなくて…」

視線をトワ達の方に戻すと

「YOU ARE THE」

「C H A M P I O N」

3人「「ないすうううううううう！」」

3人がマツチに勝利しハイタッチしていた
すると

ガチャツ

事務所のドアが開き

おかゆ「あれ〜みんな集まってる〜?なにになに?〜?どういう集まり〜?
?」

おにぎり屋さんの猫、猫又おかゆが入ってきた

おかゆ「お?ちゃんぽんとってんじやくん、やるね〜トワ〜」

と、トワの方に寄りかかっている

トワ「ちょ!?!おかゆやめっ!くつつかない!」

おかゆ「いや〜レツスン疲れちゃったからさ〜」

ロボ子「お熱いね〜ご両人〜」

ちょこ「ほんと、熱すぎてまいてしまいましたね」

おかゆのダルがらみにロボ子とちょこが乗っかってトワをいじつ
ている

トワはおかゆに寄りかかれてるのを振りほどこうとするがまん
ざら悪い気はしていないようである

ポルカ「いやーおかゆ先輩も罪な女だなあ、ん?どったねね?」

ねね「ねねもおかゆ先輩に寄りかかってほしい」

ポルカ「おい、悪戯はどうした」

ねね「…いや、これは参考にできるかも知れない…」

ねねはニヤリと悪い顔をして微笑む

ポルカは(いやな予感がする)と思いつつ

ポルカ「で、どうするん?」

ねね「トワ先輩に後ろから抱き着く」

ポルカ「ワンチャン殺されるぞ」

ねね「とわわ先輩は天使だからそんなことしないって」

ポルカ(失敗しても知らんふりをしておこう…)

ポルカは巻き添え回避するためにその場にとどまるが、ねねはバレ
ないようにトワの背後へと近づいていく

※ ゲーム中の人に悪戯するのは喧嘩のもとです、絶対にマネしないでください

※ 桃鈴ねねちゃんは実際はこんなことしません、ねっ子の皆様申し訳ありません

今日のいたずら #4

ホロライブメンバーの自由の象徴

事務所

今日も悪戯好きな悪魔は何か企んで…

ちよこ「もう、トワ様！最近悪戯がすぎてますよ！」

トワ「んぐ…」

いたのですが、

最近の悪戯の失敗続きで毎度呼び出されていたちよこ先生から説教の真っ最中だ

ちよこ「悪戯するなら怪我人や倒れるなんてことがないようにもつと安全に考慮してくださいね？」

トワ「スピリタスはトワだけのせいじゃないし…」

ちよこ「言い訳しない、一枚かんだ時点でトワ様も同罪ですよ？」

トワ「…はあい」

ちよこ「わかったならよし、じゃあちよこはちよつと仮眠とりますね〜」

そう言ううちよこはソファーに横になるとすやすやと寝息をかき始める

トワ「ぬう…さすが一流悪魔…トワ一人じゃ全然歯が立たなかった…」

ねね「いや、とわわ先輩ただ説教されてただけですよね…？」

トワ「う、うっさいねね…」

説教を逃れていたねねがやってきてさらっとツツコミを入れる

トワ「一応言われたばかりだし…今日はいたずらやめるか…」

ねね「…とわわ先輩…ねねはやりませすよ？」

トワ「いいけど今回はトワ手出さないよ？相手はどうすんの？」

ちつつち、指ふりをしてドヤ顔でねねは語りだす

ねね「愚問ですネ、ちよこ先生です」

トワ「お前実はバカだろ」

ねね「とわわ先輩…確かにあの説教見たあとで動くのはバカだと思

う

でもね

ねねはちよこ先生に説教されたいんだ」

トワ「オツケー、わかったねねね、やっぱお前バカだろ」

トワの鋭いツツコミを受けてもねねは止まらない

ねね「とわわ先輩…ねね、ちよこ先生のおっぱい揉んでくる」

トワ「…」

ねね「とわわ先輩お願いツツコミ放棄しないで、ねねがただのやばいやつになるから」

トワ「安心しな、もう充分やばいやつだ」

そう言うのとトワは座ってるゲーミングチェアを倒しアイマスクを手に取りると自分も眠りについた

ねね「さて…では…」

ねねは意を決し、ちよこの眠るソファアへと向かう

ちよこは寝息をかいたままだ

ねねの口角は上がりっぱなしである

ねね「へへへへへへへっへへへへへへwwwちよこ先生こんな無防備な寝顔をwwwwww」

ニヤニヤしすぎてただのおっさんのような喋り方になっている

これはひどい

ねね「それではあwいただきまー……………」

ちよこの胸に向けてねねが手を伸ばしたその瞬間

ムニユ

ねね「…へ？」

ねねの胸を背後から揉む人物がいた

トワ「…」

ねね「と、とわわ先輩!？」

トワ「許せねねね…トワはトワが悪戯促したって思われたくない!」

今日のいたずら #5

ホロライブメンバーの第2の自宅、事務所

今日も悪戯好きな悪魔は頭を抱えていた

トワ「んー…ここんところ悪戯仕掛けても全部失敗してる…いったいなぜ…」

ねね「いや、とわわ先輩のプランに問題があると思うんだけど…」

トワ「いやー！ねねねが余計なことしてるからでしょ！」

ねね「あーっ！まーたねねのせいにするんです!?!」

トワ「なに!?!」

ねね「なんですか!?!」

ぐぬぬ！と二人してにらみ合う

が、すぐに二人ともにらみ合うのをやめて

トワ「ごめん…言い過ぎた…」

ねね「こちらこそ…ごめんなさい…」

トワ「よし！こんどこそ悪戯成功させよう！」

ねね「了解です！こんどこそ！」

トワ「じゃあさ、次のターゲットは…」

二人はぐつと手を握り次の悪戯の相談を始める

ガチャ

事務所のドアが開き、2人の人物が

マリン「AH O Y！みなさーん！今日もレッスンお疲れ様でしたー！」

るしあ「こんばんは〜なのです」

レッスン終わりの宝鐘マリンと潤羽るしあが事務所へとやってくる

トワ「船長、るしあちゃんこんばんは〜」

ねね「レッスンお疲れ様で〜す！」

マリ「あらあら〜？とわさんにねねさんじゃないですか〜、もしかしてまた悪戯の相談ですか〜？」

トワ・ねね（ほんとへんなところで鋭い……！）

マリ「なくんて、冗談ですよ〜お二人の悪戯に船長が引つ掛かるわけありませんし〜」

るしあ「マリ、あんまからかいすぎないようにね？」

マリ「の軽口に☒ツとした表情を見せるトワ

るしあ「がゆっくり近づいてきて「マリ、さレツスンで褒められてご機嫌なの、ごめんね」とフォローを入れてくる。

ねね「あ、そういうえばマリ先輩あてにお荷物来てましたよ？」

マリ「え？」

トワ「あそこの段ボールがそうだって言っていましたよ」

トワ「の指さした先にデスクの上に置かれた段ボール

送り先は確かに宝鐘マリと書いてある

マリ「なるほど、段ボールに何か仕掛けてるんですね？ま、ここは大人の対応としてわざと引つかかって説教すると思いますかね」

るしあ「何が入ってるんだろ？」

マリ「せっかくですし開けてみましょうかね」

そう言つてマリは貼つてあつたガムテープをはがし、段ボールを開ける

すると中に入っていたのは

♡るしあ♡とかかれたまな板だった

マリ（ちよつとおおおおおおおおおおお！????????????
自分一人をターゲットとした悪戯がくると構えていたマリは激しく動揺していた

こんなものがるしあの目に留まれば…

今日のいたずら #6

ホロライブメンバーのオアシス、事務所
今日も平和な一日

のはずだったのに

トワ「んあああああああ〜ねね〜！トワはね！トワは眷属すつごく好きなのお〜！！」

まつり「わかるよ！わかるよトワちゃん！まつりもまつりす好きで好きで仕方ないの〜！」

ノエル「団長も団員さんだいしゆきなんれすよ〜！なくんでわかってくれないんれすか〜！」

ラミイ「ラミイだって雪民さん達のこと大好きです！」

ねね「あわわわわわ…どうしてこんなことに…」

そこは酔っ払いだらけの地獄とかしていた

時は1時間ほどさかのぼる

トワ「ジュースに酒を仕込もう」

ねね「随分唐突ですね…」

トワ「つてわけでもないよ？実はさ、今日メンバー集めて雑談コラボ配信しようと思ってるさ」

ねね「つてことは…配信と同時進行でドッキリ企画ってこと？」

トワは自信満々にうなづく

トワ「と、いつても前使ったみたいなスピリタスとかはさすがに危険だから、テーブルに置くジュースを缶チューハイと差し替えるって感じで」

ねね「とわわ先輩似たような仕掛けで失敗は出来ないよ？」

トワ「まあ任せときなつて、今回はどーんとトワに任せとおきな！」

と、言っていたトワであつたが

トワ「んにやく、みんな好きだお〜！」

完全に出来上がっていた

まつり、ノエル、ラミイの3人に仕掛けるつもりが誤って自分のところにもお酒の入ったグラスを置いていたのであつた

酒を飲んだのを察したのか、配信のコメントがざわつき始める

ねね（まずい…このままじゃリスナーさんがざわついて放送事故に…）

【これもしかしなくても飲んでるだろwww】

【ふにやふにや助かる】

【俺も酒開けてくる】

【俺たちも好きだぞ】

【ちくわ大明神】

【おい、今の誰だ】

ねね（なんか盛りあがってる!!!???)

コラボ配信のはずがすっかり晩酌配信とかして、リスナーもわいていたのだ

しかしそれとは裏腹に、

まつり「トワちんってさ〜スタイルいいよね〜？おなかさわらしてえよお〜？」

トワ「んあ〜？いいよお〜？トワもまつりちゃんのおなかさわる〜」

ねね「あー！まつり先輩！とわわ先輩！まずいです！まずいですって！」

配信ほつたらかしてスキンシップ始まつたり

ノエル「ふうあああ…床が気持ちいい…」

ねね「ノエル先輩！そんなところで寝ちゃダメです！配信中ですから！」

ノエルが突然床で横になつたり

ねね「あーもう！ラミイちゃんも手かしてえ！」

ラミイ「ああく、困ってるねねちゃん可愛い」

ねね「普段全然酔わないのに何で今日そんな酔ってるの!?絶対この状況楽しんでるでしょ!?!」

ラミイが酔つたふりして乗っかってきたり

お酒を飲んでいないねねが必死こいて配信を成立させようと動いていた

收拾がつかないと察したのか、さすがのねねも声を上げる

ねね「はぁーん、もう！少しはおとなしくしててくださいー！」

4人「「「はぁーい」「」」」

と、返事をした4人は

体を伸ばすと

そのまま寝てしまった

ねね「あ、あれ？みんな!?ちよつと！配信！配信きらないと！あー！リスナーさんたちごめん！今配信きるから！今日終わり！終わりい！」

大急ぎで全員の配信を切る

しかし、そんな慌ただしさをもちともせず、4人は寝たままだ

テーブルの上には飲みかけのグラスや食べ終わったお菓子の袋が散乱している

ねね「もしかなくても…ねねがこれ片付けるの…?」

ねえ！起きて！みんな起きてええええええええええええ!!」

いたずらはうまくいかなかったけどなぜかねね虐？はうまくいって
しまったようです

皆さんも

酒は飲んでも飲まれるな

に気を付けてお酒を飲みましょう

今日のいたずら…？

ホロライブメンバーに魔法のようなひと時をくれる場所
事務所

桃鈴ねねはレッスンを終えてへろへろになりながら事務所へと
やってきた

ねね「はあ…疲れた…お疲れ様です」

トワ「お、ねねお疲れ」

アキ「ねねちゃんレッスン終わり？大変だったねえ」

ねね「いやあ…ホント疲れ…た…」

ねねは自分の目の前の光景が整理できなかった

ツインテールを高速回転させて飛ぶトワと、浮いんテールに乗って
いるアキロゼの姿があった

ねね「なんで…？」

トワ・アキ「ツインテールだから」

ねね「いや、理由になってないよ!? ツインテールだからできる
じゃ限界あるでしょ!？」

ねねの必死のツツコミにも2人は首をかしげる

ガチャツ

そこへ再び事務所のドアが開き

まつり「やつほー! みんなおつかれー!」

マリリン「あらあらあらあ? 皆さんお揃いですねえ?」

あくあ「ちよっと! 事務所の中でツインテールでの飛行はやめよ
うって話になったでしょ!」

ねね「ええ!?! ツツコミのそこなんですか!?! というかツインテールが
飛行するの当たり前前みたいになってません!?!」

怒涛のように投げつけられる先輩のボケにツツコミが追い付かない

トワ「まあ？トワがツインテール飛行ホロライブ1ですから？」

あくあ「…それは聞き捨てならないね…」

マリン「トワさん、甘いですね我々がいる前でそれを言うには10年早いですよ」

まつり「じゃあ、誰が一番か競争だ！」

【望むところだ！】

全員のツインテールが高速で回転し、事務所の窓を割って外へと飛び立っていった

ねね「え…なにこれ…どういう状況？なんでみんな平然と空飛んでんの!?なんで誰もツツコまないの!?んでもって窓ガラス割って行っちゃったけど!?片づけどうすんのおおおおおおおおおおおおお

ぬあああああ！と声を上げながら頭をぶんぶん振り回すねねだった

次第に冷静になり

ねね「にげよう…！ねねも飛んで逃げれば！」

メル「ふふふ、飛びたいの？あの空へ？」

ねね「メルメル先輩!？」

ちよこ「ねね様だったらすぐ習得できますとも、さあ行きましようか」

ねね「ちよこ先生?!い、いったいどこに」

メル・ちよこ「決まってるでしょ？修行!!」

どこからともなく現れたメルとちよこに連れられ事務所の外へと連れだされる

そして

ねねは修業した

滝に打たれ、野山を駆け回り、心を無にした
そして

ちよこ「ついに、飛ぶ時が来ましたね…」

メル「ねねちゃんなら大丈夫、飛べるよ！」

ねね「ちよこ先生、メルメル先輩…行ってきます！」

ねねは目を閉じると心を無にした

そして意識を神へと向けていく

徐々に髪は回転を始め

ねねの体が空へと飛びあがっていく

ちよこ「成功です！」

メル「やったね！ねねちゃん！」

ねね「こんなもんじゃ終わらない！もつと高く高いところへ行く！

待っててね！先輩達！」

ねね「つていうのはどうかな！とわわ先輩！」

トワ「いや、どうということだよ」

すべてねねちの妄想でした

つて話

今日のいたずら 2ndフェス編

ホロライブメンバーに寄り添い続ける場所

事務所

明日、そして明後日に2ndフェスを控えたホロライブメンバー。各々がボイトレやダンスレッスンをこなし最終調整の真っ最中だ

そんな中、事務所にやってきたのはいつもの悪戯悪魔

常闇トワだ

トワ（ボイトレ疲れたなあ…4期にとっては初めての全体ライブ…

ダンスレッスンだって必死にやってきた…）

首にはタオルを巻き、スポーツ飲料を口に含む

トワ（絶対に成功させなきゃ…絶対に…絶対に…！）

飲み切ったペットボトルを握りつぶす

トワ自身には今回のライブへ向けて特別な思いがあった

それは…

ねね「とわわせーんばい！」

トワ「うわ!?ねね!?どうしてここに？」

ねね「なんでって…事務所にねねがいたらだめです？」

トワ「…それもそうだね…」

トワのこわばった表情にねねは「とわわ先輩？」と不思議そうな顔をする

ねね「明日明後日本番ですね、やっぱ緊張してます？」

トワ「緊張しないときなんてないよ、配信もそうだけどき自分には見えないけどたっくさんの人に画面を通して見られてるんだからさ…それも世界中に…ね」

ねね「うーん…確かに…」

トワはペットボトルをゴミ箱にひょいっと投げてるがそれはゴミ箱の淵にあたって外れる

トワはチツ！っと小さく舌打ちをするとペットボトルを拾いなおしてゴミ箱へと入れる

ねねはトワの様子があからさまに違うことに気付く
ねね「とわわ先輩…なにか思い詰めてませんか…？」

トワ「別に？ねねねに話すようなことじゃ…」

ねね「とわわ先輩、ねねはデビューして半年もない新人だけど…悩み聞くだけなら…できると思うんだ！」

トワはあつけにとられた表情のをした後苦笑いをして今度は不安そうな表情になる

トワ「後輩に気使わせて…嫌な先輩だね…」

ねね「とわわ先輩…？」

トワ「ねねね…トワさ、先輩たちの1stフェスすつごく感動したんだ…」

2020年1月24日に開催された1stフェス

ノンストップ・ストーリー

デビュー間もないホロふおーすのメンバーであったトワは同期とともにその様子をライブビューイングで見守っていた

トワ「いつかはああやって舞台上上がる…トワの歌をみんなに届ける…それがアイドルとして、ホロライブの一員としてトワに出来ることだっと思ってんだ…」

でもね…トワはホロライブ全体に迷惑をかけるようなことをした…」

デビューから2か月あったある日…

とあることが発端でトワは1週間の謹慎処分を受けた

顔も名前も知らない人々から寄せられるバッシング

自分の知らないところで飛び交う憶測

今まで体験したことのないようなネットからの攻撃

本人に非がなかったわけではない

が、それによってトワ自身がどれほど傷ついたかは本人しかわからないし想像もつかないものである

トワ「そんなトワをさ…メンバーのみんなも…リスナーの皆も待つてくれてる人がいた…だから…その恩返しをしなきゃいけないんだ…」
拳を握る力が次第に強くなっていく

トワ「明日は失敗できない…失敗して…台無しになんてしたくない！」

ねね「とわわ先輩…」

トワ「不安で仕方ないんだ…どんなに練習しても…配信で褒められても…もっしょとお思ったら…「ふうふうふう」ひやいいいいいいい!？」

トワの背後から何者かが近づき、耳元に吐息をかける
びっくりしたトワは後ろに振り向く

そこにいたのは

自分を支えてくれた同期達の姿

かなた「なーに言ってるのさトワ！」

ココ「迷惑かけたのはワタシ達だって同じですよ？」

わため「トワちの優しさにいつも支えられてるよ！」

ルーナ「トワトワが頑張ってるのルーナも見てるのら！」

【胸張って！楽しんで！自分たちの歌を届けよう！】

トワ「楽しんで…」

ねね「とわわ先輩…生意気な後輩かもしれないけど…とわわ先輩が楽しそうに歌って踊る姿！ねねもみたいから！だから…うまく言えないけど！頑張るんじゃないで！楽しんでほしい！」

トワ「ねね…」

トワは袖で顔をゴシゴシとすると

ねねの方に軽く肩パンをする

トワ「見とけよねね…」

お前の先輩が

最高のステージにするところ！」

そこには最高の笑顔で仲間のもとに歩む悪魔の姿があった

h o l l o l i v e 2 n d f e s . B e y o n d t h e S
t a g e S u p p o r t e d B y B u s h i r o a d

輝くステージを共に…

今年最後の…

大晦日

ホロライブの事務所

先日まで置いてあった2ndフェスやクリスマス絡みの書類や荷物は運びだされ

しめ飾りや門松、鏡餅

すっかり年越しの準備完了といったところだろう

トワ「あつという間だったなあ…もう2020年終わっちゃうんだ…」

かなた「最近レッスンだったりフェスだったり大忙しだったね」

トワ「そうだね…」

どことなく元気がないトワを見て手にした餅を頬張りながらかなたは首をかしげる

かなた「トワ？」

トワ「…かなた、アイドルやっててよかったと思う？」

かなた「ぬ^!？」

トワの突然の問いかけにかなたは思わず餅を詰まらせる

トワ「ちょ!?!かなた大丈夫!？」

かなたの様子を見て焦ったトワは水を手渡しポンポンとかなたの背中を叩いたりさする

かなた「げほっ!げほっ!…ご、ごめん…びっくりしすぎて詰まった…」

トワ「いや、トワがいきなり話題ふったからだ…ごめん…」

かなた「いや、急にどうしたのかなって思ったけどさ」

トワ「色んなことがあったけどさ…気が付けば1年経っちゃったんだなって…」

そう言つてトワは窓の外を見つめる

それを見たかなたは語りだす

かなた「…ボクはさ、アイドルって応援する側だったんだよね
なんていうか…舞台の上でキラキラしてて、みんなを笑顔にする
それを見たボクは言葉ではいい表せないような力が湧いてくるっ
ていうかさ」

トワ「…」

かなた「その舞台に…ボクは立つことが出来た
夢みたいな話だけど

それが現実になった

オープニングアクトではあつたけど4期生全員で

アイドルとしてあのステージにたてた…」

かなたはぐつと拳を握り締めるとトワの隣に立って空を見つめる

かなた「無観客のライブで…オープニングアクトで…アイドル衣装
も着れなかったけどさ

へい民のみんながさ、「かつこよかったよって」「最高のステージ
だったよって」言ってくれたから

アイドルやっててよかったって…そう思えたよ」

トワの視線に映ったのは満面の笑みの天使

トワはそれを見てクスツと笑うと

トワ「トワだってそうだよ？」

眷属のみんなはいっぱい褒めてくれたし、初めて見たって人もライ
ブ凄かったって言ってくれた

でも、やっぱり悔しかったな…

先輩たちの背中を追うだけで終わっちゃった…

だから…次は絶対先輩たちの横に並んで…一緒に歌う！」

トワは握った拳を突き出す

かなたは一瞬ビツクリしたようだったが

トワの拳に自分の拳をコツンと合わせた

その瞬間、トワが目くばせをする

すると

ココ「でっでー！」

ルーナ「ドツキリ大成功なのらー！」

ソファアの裏から「ドツキリ大成功」とかかれた看板を持ったココと襷を付けたルーナが現れる

かなたは何が起こったかわからずに絶句している

トワはいえーい

トワ「とー！いうわけで！」

ココ「【天使に悪魔がしんみりとアイドルになってよかったと思う？と聞いたら天使はスパダリムーブするのかドツキリ！】」

ルーナ「ぼっちり大成功なのらー！」

かなた「な、なんだそれ…って…あれ？」

グスツ…グスツ…

とすすり泣く声に吊られ、ソファアの裏をのぞき込むとそこには

わたため「グスツ…グスツ…ええはなしやった…」

顔をぐしゃぐしゃにしながら号泣するわためがいた

ルーナ「いやーほんとに泣きそうになったのらー」

ココ「かなたんオメーそこはぎゅつと抱きしめるところだろうよお？」

トワ「ココちゃん！それはトワが恥ずかしい奴じゃん！もー！」

かなた「ははは…なんていうか4期だなんて感じだ…」

歌もゲームも活動方針もバラバラな4人

そんな5人も続々と活動1周年を向けていた

ココ「おっし！公式配信終わたら5人で初詣じゃい！」

トワ「お、いいねえ！おみくじ引こうよおみくじ！」

ルーナ「ルーナ屋台行きたいのらあ」

わたため「グスツ…みんなで新年に突撃だ！ドドドドド！」

かなた（…これが今年最後の悪戯ってことかな？なんていうか…こんなあったかい悪戯って…あるんだね）

かなたは袖で顔をぬぐうと

かなた「みんな！

来年もこの5人で！がんばっていこうな！」

来年も

その先も

5人のアイドルがともにあることを

ねね「うおおおおおおおん!!!!!!」

ラミイ「てえてえ…てえてえだよ先輩達…」

ポルカ「ねね…ラミイ…泣きすぎ…ヴえ…」

ぼたん「はいはい、おまるんも鼻水でてつぞ

(頑張ろうなみんな…)

次は…

私たちの番だから!」

そして少女たちは

新たなステージへ

To be continued…

最終回 これからの1年を…

2021年 正月

ホロライブ事務所

ねね「ふんふんふくん♪」

桃鈴ねねは事務所で一人いそいそと準備をしていた

ラミイ「あけましておめでとうございま〜す！…あれ？ねねちゃんなにしてるの？」

ポルカ「お!?!新年早々いたずらかく？あたしも混ぜろー!」

そこへ同期である5期生の面々がやってくる

事務所の中には紙テープや作りかけのくす玉

ねね「へえ？あ、あーうん…そうそう！いたずら！いたずらしようと思ってる!」

ぼたん「いたずらなのに紙テープで飾り付け？どっちかっていうとお祝いって感じじゃない？」

ビクツと小さく跳ねるようなりアクションをするねね

目は泳いでいて冷や汗のようなものも見える

ねね「いや、違うよ？そんなんじゃないよ?」

ぼたん「フーン…まあいいけどさ、ターゲットはやっぱりトワ様?」

ねね「そ、そう!とわわ先輩!新年一発目のいたずらは普段いたずらしてきけるとわわ先輩じゃないと!」

ラミイ「ねねちゃんなんか変だよ?どうかした?」

またもビクウと体を震わせるがブンブンと首を横に振ると

ねね「なんでもない!大丈夫!」

ポルカ「さてと、悪戯に使えそうなものは…お、これなんていいかも!」

1時間ほど後

事務所に晴れ着姿の少女たちがやってきた

トワ「にしてもさ、こないだの初詣よかったね〜」

ルーナ「屋台のたこ焼きおいしかったのらく」

ココ「さすがに寒かったですけどねえ」

かなた「いや、ココの場合は上半分脱いでるようなもんだからじゃない…?」

わため「でもこうして5人で初詣出来てよかったよ〜」

4期生の面々だ

それぞれ新しく晴れ着をそろえて事務所へあいさつに来たようである

5期生の面々は机やソファアの裏、スタンドパネルの後ろ、天井に潜んでその時を待つ

かなた「ん?あれなんだろう?」

そう言っただけかなたが指差す先を他の4人が見つめる

そこには

天井からつるされたくす玉

ここはアイドル事務所

何とも言えない異物感が際立つ

わため「これって…くす玉…であってるよね?」

ココ「たれてる紐引けっことか?」

ルーナ「どー考えても怪しいのら」

トワ「(…こういうの仕掛けるのってもうわかりきってるけど…先輩としてここはちゃんと乗ってやらなきゃだ…)

とりあえず、引いてみりゃあわかるんじゃない?」

そう言っただけトワが紐を手取る

一度周囲を見回すと紐を手に取り

思い切り紐を引く

すると

パァン!

という音とともにくす玉が開く

すると中から大量の紙吹雪が落ちてきてトワはその中に飲み込ま

れる

離れていた4人は片手しか見えなくなったトワを見て慌てて駆け寄る

かなた「ちよ、トワ大丈夫!?!」

ココ「案の定いたずらだったべ…」

ルーナ「純粋なトワトワにほどこういうシンプルなのは効果的なのら…」

わため「2人とも冷静に分析してないで!早くトワち助けなきや!」

紙吹雪を振り払い、中からトワと助け出す

心なしか小さく怒りマークがついてるように見える

トワ「…すわ?う?…ねねねえええええええー!!!!!!いるんだろおおお

おおおおお!!!」

ガタつと天井で音がする

トワは拳を固めると

それを事務所の床へとたたきつける

バアン!

【うわっ!?!】

盛大な台パンの衝撃でパネルが倒れたりドアが開いたりと

隠れてた5期生の姿が露わになる

天井に張り付いていたポルカに至っては床にたたきつけられる

トワ「ねねねと尾丸だけならまだしも…ラミイちゃんと獅白ぼたん

まで…」

ラミイ「すいません…」

ぼたん「ははっは…面目ないです…」

トワ「…もーいいいや…で?なんで今回は4人でいたずら?」

その言葉に反応したのかねねは一変して笑顔になると5期生にアイコンタクトする

ねね「それ は」

トワ以外のメンバーがクラッカーを取り出し

【トワ先輩ー1周年ーおめでとーございませす!!!】

5期生の言葉をトリガーに一齐にクラッカーを鳴らす

トワは事態が呑み込めず呆然としている

ラミイ「ごめんなさいトワ先輩…こういうことなんです」

ポルカ「いやー！ねねから4期の先輩方のサプライズパーティーしようって言われましたね」

ぼたん「4期の皆さんのお祝いなんですけど、今日ってトワ様がちょうど記念日だったんで」

ねね「普通にお祝いすればよかったですけど…ちよつと魔が差しました…」

4期生の方に振り替えるトワ

かなたが申し訳なさそうに「ごめん、知ってた」と小さく頭を下げてくる

トワはおつきな溜息を吐くと

5期全員にデコピンをしていく

トワ「これでいたずらの分は不問にしてあげる、お祝い…ありがとう」

トワから飛び出した感謝の言葉に

ねねは満面の笑顔でトワに抱き着く

ねね「はぁーん！とわわ先輩かわいい！大好きい！」

トワ「ちよ！抱き着くな！やーめーろ!!」

それを見て和んだのか、ほかの面々もハグやハイタッチをする

そして

ココ「今年1年！」

わため「みんなで！」

ルーナ「楽しく！」

わため「健康に！」

トワ「過ごせるよう祈願と！」

ラミイ「あの輝かしい舞台に！」

ぼたん「みんなでそろって上がれますように！」

ねね「思いを込めて！」

ポルカ「実りある1年にしていきましょう！」

【乾杯！】

今年1年が彼女達の更なる飛躍につながりますように…